

## ◎経営情報学部

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 1 教育目的

企業や行政、NPO などの組織が直面する現実の諸課題をその本質までさかのぼって、経営学と情報学の双方の視点から学際的に分析し、学問的に発展させ、その成果を社会に活かすことのできる人材を育成します。

#### 2 学修成果

「学士」を授与される学生は、各学科に示される知識や能力を有します。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 1 専門教育課程の編成と特色

- (1) セメスター制と GPA 制度の導入
  - ア セメスター制を導入し、1 年を前期、後期に分け、半期で完結する授業を行います。
  - イ これにより学生は、半期ごとに時間割を見直すことが可能となり、受講の選択の幅が広がることや、さらに意欲的な学修機会（留学や研修など）の組み込みが可能となります。
  - ウ GPA 制度を導入して学生指導を適切に実施します。
- (2) 学部共通科目の設定・充実
  - ア 各学科の分野グループごとに、コアとなる科目を「学部共通専門科目」として設定します。学部共通専門科目は各学科に共通の専門科目であり、各専門分野の入門、概論を配置します。
  - イ 具体的には、経営関連のコア科目として経営学概論、簿記入門など、経営情報関連のコア科目として情報学入門、経営統計学入門などがあります。
- (3) コア科目、入門的科目の早期履修
  - ア 学部共通のコア科目やスキル育成の入門的な科目などの学部共通専門科目は 1 年次から履修させ、早い段階からスキル育成を開始するとともに、より専門的な知識を修得できるようにします。
- (4) 履修モデルの具体化
  - ア 両学科ともに、育成目標を目指した履修モデルを設けます。
- (5) スキル向上のための科目の充実
  - ア 学生のスキルを向上させ、実践力を身につけさせるために、1 年次の段階から学部共通専門科目として簿記、情報処理基礎などを配置します。
  - イ さらに学科専門科目についても、経営学科では、ビジネスプラン、マーケティング、会計、ファイナンスなどのスキル系科目を充実させます。
  - ウ 経営情報学部においては、理論的内容とともに演習・実験といった科目を通じて、内容の理解、体験、スキル獲得を行い、より高い技術を確実に身につけさせます。
- (6) 3 年次、4 年次に「専門演習」を 2 年間履修して卒業論文（必修）を作成します。

#### 2 学修環境

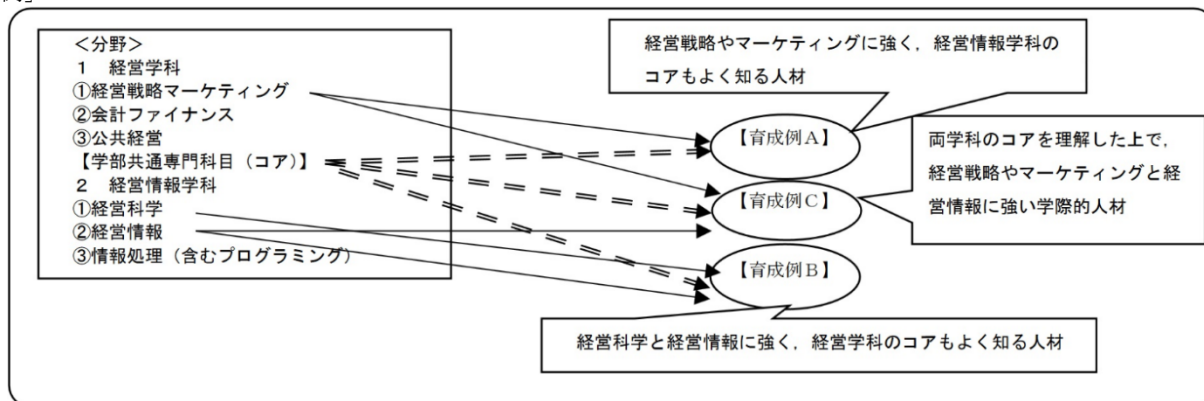
経営情報学部では上記のような学修成果を生み出すために、以下のような学修環境を提供します。

- (1) 経営学・情報学をベースに 2 つ以上の分野に強い人材育成が可能な科目配置をおこないます。たとえば、以下のような育成例があります。
  - ア 経営戦略やマーケティングに強く、経営情報学科のコア（情報処理や経営科学など）を学ぶ科目配置【育成例 A】
  - イ 経営科学と経営情報に強く、経営学科のコア（経営戦略やマーケティングなど）を学ぶ科目配置【育成例 B】
  - ウ 両学科のコアを理解した上で、経営戦略やマーケティングと経営情報を学際的に学ぶ科目配置【育成例 C】

#### 3 学修成果の評価

学修成果の評価は、各科目において、適正な学修時間を確保した上で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」に対する判断基準を定め、学期中や学期末に行う試験やレポート、授業への取り組み等に基づいて、総合的かつ厳正に行います。

[育成例]



(2) 広範囲な組織形態を対象にした教育

ア 経営学・情報学をベースに、企業組織のみにとらわれず、自治体やNPOを含む各種団体までの広範囲な組織形態を視野に、教育を進めます。

(3) 少人数教育を重視した教育

ア ゼミナールや演習を重視します。3年次、4年次に「専門演習」を2年間履修して卒業論文(必修)を作成します。

イ 理論の講義にとどまらず少人数による演習・実験という科目を通じて、マス教育では限界のある、内容の深い理解、体験、スキル獲得を行います。

ウ そのために、学部としてのコア科目やスキル育成のための入門的な科目(簿記入門、情報処理基礎など)を1年次に履修させ、早くからスキル育成を開始するとともに、学部としてのコア科目に早くからなじめるようにします。

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

1 基本理念

経営情報学部では、社会のグローバル化・情報化が進展する中で、企業や行政、NPOなどの組織が直面する様々な課題を、経営学と情報学の双方の視点から学際的に教育・研究し、高度な専門知識や最新の経営手法、情報技術を教授します。本学部では、少人数教育に基づき、早い学年から専門の基礎理論及び情報活用力やビジネスデザイン力など実践的教育を学び、さらに高学年では各分野における専門知識を身につけるための多くの教育プログラムが用意されています。自分の関心や希望する進路に従って授業科目を選択でき、専門的な知識や技術を身につけることができます。自ら課題を発見し、その課題に挑戦する意欲を持ち、経営と情報の革新(イノベーション)を実現しようとする人を求めています。最先端の経営学と情報学の修得に熱意を持つ学生の入学を期待しています。

2 人材育成目標

(1) 経営学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため、経営戦略マーケティング、会計ファイナンス、公共経営の3つの専門分野を設定し、これらを幅広く学ぶことにより、企業や行政、NPOなど多様な組織活動の担い手となることのできる人材の育成を目指します。

(2) 経営情報学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を達成するため、情報システムの企画・設計開発・運用管理の能力を身につけ、企業や社会の情報化に寄与できる「情報化推進者」及び情報産業界において情報システムの開発を行う「情報処理技術者」の育成を目指します。

## ◎経営情報学科

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### 1 学修成果

##### 【知識・技能・思考力・判断力・表現力・主体性・協働性】

- ・組織（企業、自治体、各種団体など）の経営戦略に基づき、情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進者としての能力
- ・情報処理産業界において、地域や組織ユーザなどの経営体の要件を理解し、情報処理システムの開発ができる情報処理技術者としての能力

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 1 専門教育課程の編成方針

- (1) 学科の人材育成目標を達成するため、学部共通専門科目を学んだ上で、経営情報分野、経営科学分野、情報処理分野の専門知識とスキルを身につけた学生を育成します（カリキュラムマップについては図2参照）。

図2 経営情報学科のカリキュラムマップ

総合	経営情報学専門演習Ⅰ、経営情報学専門演習Ⅱ											
	システム運用論 応用情報システム開発論	意思決定論	経営情報シミュレーション	サプライチェーン戦略論	品質管理論	オペレーションズリサーチⅡ	経営システム計画論	データベース実験 環境情報処理論	プログラミング演習 アルゴリズム演習 マルチメディア演習	インターネットアプリケーション 情報セキュリティ論	ネットワーク管理論 情報ネットワーク実験	ビジネス英語 外国書読誦Ⅰ 外国書読誦Ⅱ 経営情報学特別講義Ⅰ 経営情報学特別講義Ⅱ
深化	情報リスクマネジメント	応用確率システム論 経営情報システム実験	経営情報システム開発論	知的生産システム論 知識情報システム論	データマイニング 経営統計学	社会情報論 シミュレーション論 最適システム論 オペレーションズリサーチⅠ 経営科学実験	知能情報論 情報数学	データベース論 情報技術基礎論 数理情報論 視覚情報処理論	プログラミング アルゴリズム入門 ソフトウェア開発管理論 マルチメディア概論	情報システム論 情報システム実験	情報ネットワーク論	
展開	経営情報論				経営数学			コンピュータ概論				
導入	(学部共通専門科目) 情報学入門、簿記入門、経営学概論、マーケティング論、ファイナンス概論、ビジネス数理解入門、情報科学論、情報処理基礎、経営戦略論、公共社会論、理論経済学入門、経営統計学入門 (学科専門科目) 経営情報学研究序論											
	システム設計・運用	システム分析	システムシミュレーション	経営情報システム	データ解析	システム最適化	情報数理	情報処理技術	開発技術	情報システム	情報ネットワーク	その他
	経営情報分野				経営科学分野			情報処理分野				

3つの専門分野の内容は、次のとおりです。

##### ア 経営科学分野

企業活動や情報システムの運用に関し、データ解析により新たな知見の発掘や業務の最適化を行うために必要な理論や技法を修得します。

##### イ 経営情報分野

企業や社会の情報化を進める上で必要な情報化企画、費用対効果評価、業務分析、情報システムの設計手順やその構築法などを修得します。

##### ウ 情報処理分野

情報システムを構成するために必要なコンピュータの仕組み、情報処理、情報セキュリティ、情報ネットワーク、プログラミング技法を修得します。

- (2) 経営科学分野、経営情報分野、情報処理分野の3つの授業分野に区分しますが、「情報化推進者」の育成と「情報処理技術者」の育成を目指した履修モデルを作成し、修得科目を通じて、育成目標を具体化します。

#### 2 学修成果の評価

学修成果の評価は、各科目において適正な学修時間を確保した上で、コースカタログ・シラバスに示した配点割合に従って多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」についての判断基準を設けて、学期中や学期末に行うレポート・筆記試験等のほか、授業への参加態度、グループ課題や討論への貢献度などを含め、総合的に評価します。

## 1 基本理念

企業や行政などの情報化や知識産業化に必要な情報学について、基礎から応用まで幅広い視点から学際的に分析し、また学問的に発展させることにより、豊かなデジタル社会を構築することを目的としています。

## 2 人材育成目標

- (1) 企業や社会で、情報システムの企画・設計開発・運用管理の面において活躍したいと考える人材（情報化推進者を指す人材）
- (2) 情報産業界において、それぞれ固有の問題を解決できる、情報システムを開発したいと考える人材（情報処理技術者を指す人材）
- (3) 環境や社会に情報を活用することにより、エコ社会の実現に向け、環境に関する種々の問題を解決したいと考える人材（エコ社会の実現に興味がある人材）
- (4) 知的創造に関心を持ち、新しい産業やベンチャーの創出を推進したいと考える人材（創造力のある人材）

## 3 求める学生像

- (1) 高等学校で数学、英語、国語、理科、社会に関して十分な基礎学力を持つ人〔特に数学が好きな人〕（知識・能力）
- (2) コンピュータの仕組みや情報セキュリティ、情報ネットワークなどの理解に意欲や関心を持つ人〔情報学に興味を持つ人〕（意欲・関心）
- (3) 基本情報技術者などの資格を取得し、社会で活躍したいと考えている人（目標・意欲）
- (4) 情報学の専門知識とスキルを身につけ、それを活かした社会・地域への貢献や活動などに関心のある人（関心）
- (5) 情報学の専門知識とスキルを身につけ、それを活かした職業に就きたいと思っている人（目標・意欲）

## 4 入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程、後期日程）のほか、推薦入試（県内高等学校等推薦、県内専門高等学校等推薦、全国高等学校等推薦）、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を実施し、求める学生像に従った人材を受け入れることを目指しています。

### [一般選抜（前期）]

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目（又は7科目））及び個別学力検査（数学、外国語）により評価します。

### [一般選抜（後期）]

基礎学力の把握のため、大学入試センター試験（5教科6科目（又は7科目））及び個別学力検査（数学）により評価します。特に、数学の得意な学生を選抜したいため、個別学力検査の配点を高くしています。

### [推薦入試]

書類審査、小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、論理的思考力、情報についての関心度などを点数化して評価します。

### [社会人特別選抜]

書類審査、小論文及び面接の結果を総合して選抜します。小論文では、課題に対する理解力、論理的思考力及び文章表現力などを点数化し総合的に評価します。また、面接では、志望動機・意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。

### [外国人留学生特別選抜]

日本留学試験の日本語及び数学の結果、及び TOEFL 又は TOEIC の結果、並びに本学で実施する面接を総合して選考します。面接では志望動機、学修意欲、情報についての関心度などを点数化して評価します。面接は、経営情報学科で学びたいという志望動機・意欲、情報についての関心度などについて質問し、これらに対する応答の能力や内容などを総合的に判断し、点数化して評価します。